

令和2年度 西小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

豊かな創造力を持ち、思いやりのある心情、たくましい気力と体力、自主的精神に満ちた実践力のある児童を育成する。

(2) 具体目標

- よく考え、学ぶ子どもを育てる。(考える)
- 思いやりのある子どもを育てる。(思いやる)
- 心身を鍛える子どもを育てる。(鍛える)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童一人一人のよさや強みを探し、見つけ、つくり、それをほめて伸ばす指導の充実により、多様な個性・能力を伸ばし、互いの良さを生かしながら、支え合い高め合える集団を形成して、すべての児童が自信と誇りの持てる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を視点とした授業改善の推進

- ① 学ぶことに興味や関心を持ちながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」を実現する。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」を実現する。
- ③ 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりすることに向かう「深い学び」を実現する。

(2) 他者への思いやり、規範意識、自己肯定感の育成

- ① 道徳教育、人権教育、児童生徒指導の充実により、他者への思いやりや規範意識を育む。
- ② 役割を分担し、協力して取り組む機会や異年齢交流を通して、年少者の世話をする機会等を充実させるとともに、様々な体験活動を通じて、達成感や成功体験を得させることにより、自己肯定感を育む。

(3) 体力の向上と健康の保持増進

- ① 教科体育の充実により、基礎的な身体能力と運動やスポーツに親しむ態度を育成する。
- ② 食育の推進を通して、望ましい食習慣を形成する。

(4) 教職員の資質能力の向上

- ① 自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を高めるとともに、学校作りのチームの一員として、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む専門的な力を身に着ける。
- ② 授業研究会を軸とした校内研修の充実により、相互に高め合い、学びあう協働的な同僚性を構築し、教職員の実践的指導力と専門性を向上させる。
- ③ 職場環境を整備することにより、教職員一人一人が心身共に健康で、能力を最大限に発揮できるようにする。

(5) 地域とともにある学校づくりの推進

- ① 学校、家庭、地域が目標やビジョンを共有し、相互に連携・協働することによって、子どもたちの豊かな学びと成長を実現する。
- ② 学校園における小中の連携と、義務教育9年間を一体とした指導によって、学校生活へ円滑に適応させ、学力を保障する。
- ③ 学校及び教師が担う業務の明確化・適正化に努め、学校、家庭、地域が適切な役割分担のもと、相互に連携・協力を推進する。

[一条地域学校園教育ビジョン]

「基本をしっかり身に付け、地域に生きる子どもを育む一条地域学校園」

4 教育課程編成の方針

- 1 教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領、宇都宮市立小中学校の教育課程及びその編制基準に従い、教育課程を編成する。
- 2 うつのみや学校マネジメントシステム、学習内容定着度調査等の各種調査結果やデータを効果的に活用し、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、特色をもった教育課程を編成する。
- 3 学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成していくことができるよう、教科横断的な視点からの教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【 学 校 運 営 】 児童一人一人のよさや強みをほめて伸ばす指導の充実
- 【 学 習 指 導 】 対話的な学びの実現をめざした指導方法の工夫
- 【 児 童 生 徒 指 導 】 規範意識を高め、自己肯定感を育む指導の充実
- 【健康（体力・保健・食・安全）】 基礎体力の向上と望ましい食習慣の形成をめざした指導の実践

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「児童は授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 児童の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>確かな学力を育むため、知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力、及び学びに向かう力等を養うなどして、学習指導を充実させる。</p> <p>① 「宇都宮モデル」を活用した授業改善を推進する。 ※「宇都宮モデル」とは、学習課題を「はっきり」、課題への取り組みを「じっくり」、まとめを「すっきり」という授業のスタイルのこと</p> <p>② 「西小よい子の学習の約束」を活用し、基本的な学習態度の指導を徹底するとともに、児童が積極的に自分の考えを発言できる雰囲気をつくる。</p> <p>③ 家庭学習の習慣化に向けた指導を行う。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 86.7%であり、数値指標を上回った。学校課題における授業研究会を中心に授業改善に取り組んできたことで、友達の考えをよく聞いたり、自分の考えを進んで話したりしようとする児童の姿が見られるようになってきた。日頃の授業の様子からは、学習用具がそろわない、授業中の私語等、学習に向かう姿勢において課題がある。</p> <p>【次年度の方針】 「学習の約束」や「授業のきまり」などについて学習態度を身に付けさせるべく、基礎基本の徹底を図る。 また、家庭学習強化週間などを設け、家庭学習の習慣化に向けた取り組みを家庭に発信していく。</p>

<p>の 姿</p> <p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>思いやりの心を育てるため、「宮っ子心の教育」を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。</p> <p>① 自分との関わりで道徳的価値について多面的・多角的に考え、話し合う「道徳科」の授業づくりに取り組む。</p> <p>② 児童のよさや努力等を積極的に認め励まし、学級全体に広めたり、家庭に知らせたりする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 80.1%であり、数値指標を大きく下回った。豊かな心を育む教育を推進するため、道徳科の授業では、全学年で「親切、思いやり」を重点指導項目に設定し、思いやりの心を育む道徳科の授業を展開してきた。児童の様子から、友達との関わりにおいて、相手の気持ちを考えない言動や、自分の気持ちを上手に伝えられないことが原因でおこるトラブルが見られ課題となっている。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、道徳の授業の充実と、互いに認め合う学級の雰囲気づくりに努め、相手の立場に立って考えて行動する児童の育成を図る。</p>
<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>規範意識を育むため、児童指導及び「道徳科」の授業を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。</p> <p>① 「西小よい子の一日」を意識して生活できるよう指導する。</p> <p>② <u>道徳科においては、「規則の尊重」について、重点内容項目として指導し、自分の行動を振り返らせ、道徳的な実践意欲と態度を育てる。</u></p> <p>③ 年度初めに年間を通した生活のきまりやマナーを設定し、時期に応じて強化項目を決め、校内巡回指導をしながら定着を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 71.1%であり、数値指標を大きく下回った。児童の生活の様子から、挨拶や言葉遣い、時間を意識した行動、室内での過ごし方等、生活面で多くの課題がある。「どうすることが正しいのか」、「なぜそうなくてはいけないのか」という基本的な知識や技能が十分に理解されていないと考えられるため、まずは一つひとつ丁寧に教えていくことが大切であると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 教職員の共通理解のもと、生活の決まりやマナーに関する基本的な知識や技能について指導の徹底を図る。また、児童が主体となってきまりやマナーについて啓発・称賛する場を設定することを通して、児童自身に課題意識をもたせ、定着を図る。</p>
<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 教職員肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>自分から進んで気持ちのよいあいさつができるようにするため、あいさつ運動を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。</p> <p>① 児童会を中心としたあいさつ運動を展開する。</p> <p>② <u>地域や中学生、保護者と連携して、地域学校園あいさつ運動を展開する。</u></p> <p>③ 学級での授業開始・終了時や特別教室での入退室時のあいさつの指導を徹底する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 80.0%である。地域学校園あいさつ運動は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できなかったが、登校時の教職員への挨拶はできる児童が多くなってきた。さらに、廊下での会釈や、来校者への挨拶など、時と場に応じた挨拶ができるようにしたい。</p> <p>【次年度の方針】 学校生活の様々な場面に応じた挨拶の仕方について具体的に示していくとともに、声の大きさや、相手に気持ちが伝わる挨拶のやり取りについて、継続して指導していく。</p>

<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>やり遂げる達成感を味わわせるため、学校行事や各教科の指導の工夫に取り組み、失敗や困難を乗り越えて挑戦し続けるたくましさを涵養する。</p> <p>① 「挑戦する」「がまんする」「あきらめない」について学校行事等を通して体験できるよう指導する。</p> <p>② 各教科の学習において、既習事項をもとに解くことができる発展的な課題に取り組ませる授業を仕組む。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 90.0%であり、数値指標を大きく上回った。目標をきちんと立てさせること、見通しをもって解決に当たらせ、振り返りを行うことなどを意識して指導にあたってきた。</p> <p>【次年度の方針】 行事、学習などすべてにおいて、児童自身に目標を持たせ、終わった後には、振り返りをさせ、次の活動の目標につなげる意識をもたせていく。この指導のサイクルを意識して教育活動を行っていき、児童が目標に向かって頑張るということを、体験を通して学べるように指導していく。</p>
<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>心身ともに健康で、たくましい児童を育てるため、「元気アップ教育」を充実させるなどして、健康で安全な生活を実現する力を育む教育を推進する。</p> <p>※「元気アップ教育」とは、「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」について小中9年間を通して取り組む教育活動のこと。</p> <p>① 教科体育における運動量の確保や元気っ子チャレンジへの参加を通して体力を向上させる。</p> <p>② 養護教諭や学校栄養士と連携した授業に取り組み、健康への関心を高める。</p> <p>③ 避難訓練や地域安全マップの作成をはじめ、学校教育全体を通して、危険を予測し、自分の命は自分で守ることの大切さについて指導する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 82.5%であり、数値指標を下回った。昨年度と比較しても 8.5 ポイント下がっている。避難訓練については、知識として教えるべきことを教え、予告なく休み時間に実施をするなど、児童が自ら考えて、命を守る行動を取れるよう工夫した。また、養護教諭との授業も、各学年において実施した。教科体育では、新型コロナウイルス対応のために活動が制限され、十分な運動量が確保できていない部分があり、体力向上において課題がある。</p> <p>【次年度の方針】 新しい生活様式の中で「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」の指導の充実を図り、児童の健康や安全に対する意識を高める。</p>
<p>A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 保護者の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>自分のよさや頑張りに気付かせ、自己有用感を高めるようにするため、「宮・未来キャリア教育」の充実を図るなどして、将来への希望と協働する力を育む。</p> <p>① 特別活動において、一人一人の持ち味を生かした役割分担を行う。</p> <p>② 総合的な学習の時間・生活科・特別活動などを中心に、活動の振り返りを確実にを行い、自分のよさや成長に気付かせる指導を行う。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は 73.1%であり、数値指標を下回った。学校行事や授業において、目標をもたせ、自分の学びを振り返る活動は行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 自分自身の役割に責任をもって取り組めるように児童を支援するとともに、頑張りを認め励まし、発信できるように努める。また、生活科・総合的な学習の時間で「宮・未来キャリア教育」に深く関連する単元について、学習の振り返りを児童の口や目標に繋げられるよう指導を工夫していく。</p>

<p>A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるため、英語教育の充実を図るなどして、「グローバル社会」に対応する教育を推進する。</p> <p>① ALT を活用し、ネイティブの英語に触れる機会を十分に確保する。 ② 外国語の授業では、英語によるやりとりを中心とした授業を展開し、英語で伝え合う楽しさを味わわせる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 84.3%であった。本校は、高学年の週 1 時間を除き、すべて ALT との T.T による授業であるため、英語によるコミュニケーション中心の授業が展開されている。</p> <p>【次年度の方針】 ALT との連携を密にし、児童が積極的に英語でコミュニケーションを図れるような授業展開を工夫し、英語教育の充実を図る。</p>
<p>A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>宇都宮の伝統や文化に愛情と誇りをもてるようにするため、郷土への愛情を育む学習の充実を図るなどして、郷土愛を醸成する教育を推進する。</p> <p>① 3 学年社会科における郷土の学習や「地域が先生」における「ふくべ細工」「百人一首」等の学習活動の充実を図る。 ② 総合的な学習の時間における「宇都宮学」の学習を通して、郷土愛を育む。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.6%であり、数値指標を上回った。「宇都宮学」の学習が始まったことに加え、「地域が先生」における体験的な学習活動も充実しており、郷土宇都宮への愛情を育むことができています。</p> <p>【次年度の方針】 「宇都宮学」の学習や「地域が先生」、6 年生の総合学習「インターンシップ」などの体験学習を通し、宇都宮への郷土愛を育ませる授業を展開する。</p>
<p>A 10 児童は、ICT 機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>情報活用能力を身に付けさせるため、情報活用能力を育成する教育の充実を図るなどして、「情報社会」に対応する教育を推進する。</p> <p>① 道徳や学級活動における情報モラル教育を確実に実施する。 ② ICT 機器や図書、新聞等を活用した授業を展開し、児童が必要に応じて情報手段を活用できるよう指導する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 78.3%であり、数値指標を下回っている。情報モラル教育については、道徳等において指導をしてきた。GIGA スクール構想により、タブレットを使用した学習も今後増えてくることが予想されるため、計画的に児童が ICT 機器を操作する学習活動を展開していくことが課題となる。</p> <p>【次年度の方針】 GIGA スクール構想により、タブレットを使用した学習も今後増えてくることが予想されるため、計画的に児童が ICT 機器を操作する学習活動を展開していく。</p>
<p>A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「児童は誰に対しても思いやりの心をもっている」 地域住民の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>高齢者への感謝や尊敬の心を育てるため、高齢者とふれあう機会の充実を図るなどして、「少子高齢社会」に対応する教育を推進する。</p> <p>① 高齢者を講師として招き、高齢者の知恵や人生経験に学ぶ機会を設定する。 ② 高齢者を学校行事に招待したりするなどして、高齢者とふれあう機会を設定する。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答は 100%であり、数値指標を大きく上回った。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な行事が実施できない中で、児童会主催の「感謝の会」は実施することができ、日頃お世話になっている方々への感謝の気持ちについて考えさせることができた。</p> <p>【次年度の方針】 生活科や総合的な学習の時間、また、日々の様々な学校生活の場面において高齢者とふれあう場面を設定し、交流を深めることを通して、感謝の気持ちを伝えていく。</p>

	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>「持続可能な社会」について関心を持つようにするため、各教科の学習を通して、「持続可能な社会」に対応する教育を推進する。</p> <p>① 総合的な学習の時間において、環境や国際理解、食をテーマとして地域の学習素材を活かし指導する。</p> <p>② 総合的な学習の時間においては「持続可能な社会」に関する各教科の単元との関連も図りながら教科横断的な学習を展開する。</p> <p>③ 節水や節電、ごみの分別など、日常生活において環境問題を意識した教育活動を実践する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 69.3%であり、数値指標を大きく下回った。教科においては、学習内容として示されている単元において指導し、ごみの分別等は日常的に行ってきた。最近よく耳にするようになった「SDGs」についてなど、どういふことなのかを知識として指導した上で、日常生活で実践することに結び付けていく必要があると思われる。</p> <p>【次年度の方針】 社会に目を向けさせ、児童の興味関心を引き出させるよう努めるとともに、「SDGs」など具体的な知識の習得を図る。また日常生活において、環境に配慮した取り組みなどの実体験を意識した教育活動を設定する。</p>
	<p>B1 児童は、異年齢の友達と遊んだり、年少者をいたわりながら活動したりしている。</p> <p>【数値指標】 「私は、ほかの学年の友達と仲よく遊んだり、協力して活動したりしている。」 児童の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>他者への思いやりの心や自己肯定感を育むため、縦割り班による活動を充実させて、学年や立場に応じた態度で活動できるようにする。</p> <p>① 縦割り班による清掃活動において、上級生が下級生の世話をしながら清掃に取り組めるよう指導する。</p> <p>② わくわくタイム、クラブ、委員会活動などの異学年交流の場で、学年に応じた役割を与え、異年齢の友達と積極的に交流が図れるよう指導する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 74.5%であり、数値指標を大きく下回った。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、できなかった異学年交流活動も多く、昨年度と比較すると 14 ポイントのマイナスとなっている。</p> <p>【次年度の方針】 新しい生活様式の中で、実施可能な活動を精選し、異学年交流の場を設定することで、他者への思いやりの心や自己肯定感の育成を図る。</p>
<p>目指す学校の姿</p>	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>特別な支援を必要とする児童の様々な教育的ニーズに対応するため、実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫するなどして、適切な指導及び必要な支援を行う。</p> <p>① かがやきルーム指導員と学級担任が連携し、かがやきルームにおける指導を充実させる。</p> <p>② 特別な支援を必要とする児童にとっても、わかりやすい指示や教材を工夫して授業を展開する。</p> <p>③ 教育支援委員会やケース会議を開き、共通理解のもと指導にあたり、必要な場合は関係諸機関との連携を図り指導する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.0%であり、数値指標を大きく上回った。特別な支援を必要とする児童への指導内容や指導方法などについて、関係諸機関との連携を図りながら、ケース会議を重ね、共通理解のもと必要な支援を行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 関係機関との連携を図りながら、ケース会議など職員間の共通理解のもと、全職員が統一した支援を行う。 かがやきルームについては、年度途中であっても見直しを行い、終了や入級を柔軟に実施する。</p>

<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 保護者の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>「西小いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ根絶に向け、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、組織的な対応を行うなどして、学校全体でいじめ防止の取組を実践する。</p> <p>① 意識の高揚を図るため、いじめ根絶集会や日常的な言葉の指導を実施する。(未然防止)</p> <p>② 学校生活アンケートや Q-U 調査結果をもとにした教育相談を実施するとともに個に応じた指導を実施する。(早期発見・早期対応)</p> <p>③ 同僚や管理職への「報・連・相」、「いじめ等対策委員会」の開催などを確実にし、情報を共有して、適切に対応する。(組織的な対応)</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は 78.0%であり、数値指標を下回っている。「いじめゼロ集会」や学校生活アンケートなどに加え、今年度、新たに「親子で考える道徳」を家庭学習として実施し、意識の高揚を図る取組を実践した。</p> <p>【次年度の方針】 目標には及ばなかったが、前年度と比較すると 6.1%肯定的回答が増えた。「親子で考える道徳」は次年度も継続し家庭と連携していじめ防止に取り組んでいくとともに、学校での取組等についても家庭への情報発信を充実させる。</p>
<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方は一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 保護者の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>不登校の未然防止、早期発見、早期対応、組織的な対応に努める。</p> <p>① どの児童にとっても自分の居場所となる温かい雰囲気学級経営を行う。(未然防止)</p> <p>② 担任は児童・保護者に積極的にかかわり、普段からの信頼関係づくりに取り組む。(未然防止・早期発見)</p> <p>③ 欠席状況共有シートや保健室への来室状況などにより児童の状況を把握し、早期に支援の検討を行う。(早期対応・組織的対応)</p>	<p>【【達成状況】】 保護者の肯定的回答は 83.3%であり、数値指標を上回った。温かい雰囲気学級経営はもちろん、登校時の児童の様子把握、保健室への来室状況把握など、全職員体制で、未然防止、早期対応、組織的対応に努めてきた。</p> <p>【次年度の方針】 担任を中心に全職員の目を通して児童の様子を把握し、児童指導連絡会や日々の情報交換を通して不登校の未然防止、早期発見、組織的対応に努めていく。また、保護者との関係を深め、学級での取り組みや家庭での様子についての情報共有に努める。</p>
<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 「教職員は特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて適切な支援をしている。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>外国人児童が円滑に学校に編入し、充実した学校生活を送ることができるよう、外国人児童の受け入れ体制を整備する。</p> <p>① 個性を認め合う受容的な学級づくりを行う。</p> <p>② 人権教育を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.0%であり、数値指標を大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】 外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援ができるよう、いつでも受け入れ可能な体制の整備をしていく。</p>
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 「私は、今の学校が好きです。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>児童が自己のよさを生かせるよう、創意工夫した教育活動に取り組む。</p> <p>① ほめて伸ばす教育を実践し、一人一人を大切に学級づくりを行う。</p> <p>② 児童に自己決定の場を与え、自己存在感を育む。</p> <p>③ 教職員は、児童と共に遊ぶなど、児童とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を構築する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 79.5%であり、数値指標を大きく下回った。日頃の様子から、自主性や主体性、自分の考えを言葉で伝え合う力などを育てていく必要性を感じる。</p> <p>【次年度の方針】 よりよい自分や学級、学校をつくるために、児童が友達と関わりながら、話し合ったり活動したりする活動を充実させていくことで、楽しく豊かな学校生活が送れるようにしていく。</p>

<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>教職員の授業力を高めるため、校内研修を充実させるなどして、実践的指導力と専門性を向上させる。</p> <p>① 「宇都宮モデル」を活用した一人一授業の実施を通して、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を視点とした授業改善に取り組む。</p> <p>② 分かる授業のための教材研究を行い、学び合いを重視した授業を行う。</p> <p>③ ミニ漢字・計算テスト等を計画的に実施し基礎基本を確実に定着させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 91.0%であり、数値指標を上回った。学校課題での授業研究を中心に、授業改善に取り組み、学力向上を図ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 宇都宮モデルを活用した授業を意識し、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を視点とした授業実践を継続する。また、「かがやきルーム」、習熟度別学習やチームティーチングなど、個に応じた学習支援を継続する。</p>
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>学校の組織力を強化し、児童への指導・支援の充実を図るため、多様なスタッフの専門性を発揮できるようにする。</p> <p>① 養護教諭や学校図書館司書、学校栄養士業務の専門性を生かした授業を実施する。</p> <p>② インターネットバンキングや学校徴収金システム等の活用により業務の負担軽減を行う。</p> <p>③ SCM を中心として、スクールカウンセラー等と連携することで、児童指導の充実に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を大きく上回った。全職員がそれぞれの立場で、専門性を生かして学校運営に参画している。</p> <p>【次年度の方針】 多様なスタッフの専門性を生かしつつ、公務は効率化を図る。一方で児童指導に関わることは、チームで関わり、充実させることに努める。</p>
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>教職員の健康と安全を確保し、質の高い教育活動を維持していくため、勤務時間に対する意識改革や具体的な業務軽減策の実施などを通して、働き方改革を推進する。</p> <p>① 毎月、リフレッシュデーを設定し、定時退勤とする。</p> <p>② 学級事務支援スタッフと担任が連携し、学級事務の負担軽減につなげる。</p> <p>③ 勤務時間管理に努め、業務を見直して長時間勤務の改善に取り組む。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 80.0%であった。勤務時間に対する教職員の意識改革に取り組んでいるところである。</p> <p>【次年度の方針】 会議や打合せの効率化、教材研究等を行うための放課後の時間の確保、優先すべき仕事の見極め、時間を意識した働き方等、全教職員で共通理解のもと見直しを図りながら業務改善に取り組む。</p>
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>児童の学校生活適応と学力保障を目指すし、小中教職員の緊密な連携に基づく指導を充実させるなどして、地域学校園を生かした学校運営を推進する。</p> <p>① <u>地域学校園あいさつ運動、お弁当の日、クリーンアップ活動、西地区大運動会で交流を進める。</u></p> <p>② 教職員間の交流を図るため、小中一貫の日を設け、研修会や会議等を実施する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.0%であり、数値指標を大きく上回った。今年度は、昨年度まで行っていた児童生徒間の交流活動は全く実施できなかったが、教職員間での情報交換等は緊密に行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 地域学校園内の小中学校と調整を図り、新型コロナウイルスの感染拡大状況を見ながら、できる活動を行っていく。</p>

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 「学校は家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 保護者の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>創意ある教育活動を展開するために、専門性のある人材を活用したり、体験的な学習活動を取り入れたりするなどして、地域の教育力を活かした特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>① 専門的な知識のある方を講師とする教育活動「地域が先生」等を設定し、児童の豊かな感性を育てる。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は91.2%であり、数値指標を大きく上回った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できない活動が多かったが、「地域が先生」は活動内容や実施方法を工夫することで、全学年実施することができた。児童の感性を育てる体験的な学習活動が展開された。</p> <p>【次年度の方針】 新型コロナウイルスの感染拡大状況を見ながら、できる活動を行っていく。地域の教育力を生かした教育活動は、本校の特色でもあるので、なるべく多くの活動を実施できるよう努力する。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校は家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 地域住民の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>家庭・地域とのつながりを強化できるように、地域とのつながりを深めながら、地域の教育資源を有効に活用できる体制づくりを促進するなどして、学校運営を行う。</p> <p>① 各種便りや学校ホームページなどを活用し、学校の様子を積極的に発信する。 ② 学習支援や環境整備、児童の健全育成・安全確保などについて、「西小魅力ある学校づくり地域協議会」や地域の諸団体との連携を強化する。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答は100.0%であり、数値指標を大きく上回った。地域協議会との連携により、登下校の安全確保、施設の消毒活動、学習支援ボランティアによる授業支援や環境整備など、家庭・地域の力をお借りした学校運営ができたことに感謝したい。</p> <p>【次年度の方針】 西小学校魅力協との連携を図り、地域や保護者ボランティアから、より多くの協力が得られるような体制づくりを工夫する。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>児童及び学校を利用する全ての人々が安全に過ごせるように、施設・設備の定期的な安全点検の実施などを通して、教育環境を整備する。</p> <p>① 月1回安全点検を確実に実施し、修繕や改善が必要な箇所については、速やかに対応する。 ② 児童が多く使う箇所については、指導者が日常的に点検を行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100.0%であり、数値指標を大きく上回った。安全点検を確実にし、修繕を行うなど速やかな対応を心掛けるとともに、児童昇降口のオートロック化、職員玄関の施錠なども行い、防犯対策を強化した。</p> <p>【次年度の方針】 安全点検を確実に実施するとともに、事務職員や学校業務嘱託員、機動班と連携し、速やかな修繕対応などを心掛ける。</p>
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 「児童はICT機器や図書等を学習に活用している。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>情報化社会で生きる資質・能力を育むため、ICT機器や図書等を積極的に活用するなどして、授業を充実させる。</p> <p>① 情報主任を中心に、授業で活用できるデジタル教材等について情報を共有する。 ② 図書館司書を中心に、学習内容に応じた図書資料等を整備する。 ③ 発達段階に応じた学校図書館の利用方法について指導する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は90.0%であり、数値指標を大きく上回った。情報主任や学校図書館司書を中心に、学習に必要な資料の整備に努めてきた。</p> <p>【次年度の方針】 タブレットの導入に伴い、紙ベースの図書資料とデジタル教材の有効活用法などについて、研修などを通し個々がよりよく活用していけるよう努める。</p>

	<p>B2 教職員は、児童一人一人のよさをほめて伸ばす指導を行っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方は、わたしのいいところを認め、ほめてくれる。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>自己肯定感を育むため、「ほめて伸ばす指導」を充実させるなどして、すべての児童が自信と誇りのもてる学校づくりを推進する。</p> <p>① 「きらり賞」を通じてよい行いを賞賛する。 ② 帰りの会などで児童をほめる機会を設け、全員の児童をほめるようにする。 ③ 児童の頑張りやよい行いを、家庭にも連絡する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 86.1%であり、数値指標を下回った。これまで通り「きらり賞」を通じてのよい行いの称賛を行ってきた。日常生活において、ほめることが、児童の自己肯定感や自己有用感につながるようにするには「何を」「どのように」ほめることが大切であるかを考えていく必要がある。</p> <p>【次年度の方針】 児童の自己肯定感や自己有用感を育むために、児童のよさやがんばりについて学級や学校全体で称賛する場を設定する。また、児童のよい行いを積極的に家庭に発信していく、児童自身が自己肯定感を実感できるようにしていく。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B3 児童は、地域や学校のために積極的に働いている。</p> <p>【数値目標】 「児童は地域や学校のために積極的に働いている。」 地域住民の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>役割を果たす充実感や社会貢献への喜びなどを味わわせるため、地域行事やボランティア活動を体験させるなどして、社会に参画し、協働する力を育む教育を推進する。</p> <p>① 「クリーンアップ in 西」を実施し、校外ボランティア活動を体験させる。 ② 地域や学校のために働く「子どもボランティア」活動を推進する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答は 93.3%であり、数値指標を上回った。「クリーンアップ in 西」は中止となったが、校内における「子どもボランティア活動」には、多くの児童が進んで参加し、自分たちから仕事を見つけて働くとする姿も見られるようになってきた。</p> <p>【次年度の方針】 地域の方々と共に働く「クリーンアップ in 西」や、学校のために働く「子どもボランティア」活動は、その意義について考えさせながら、引き続き推進していく。さらに授業においても、「地域の一人として自分にできること」について、児童に考えさせ、実践する機会を与えることによって、児童自身の意識を高めるようにしていく。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【宇都宮市小学校全体との比較】

- ・地域の教育力を生かした教育活動への取組や家庭・地域と連携・協力した児童の育成については、市と比較しても肯定的回答の割合が高い。状況を見ながらできる活動は工夫をして取り組んできた。
- ・安全に配慮した環境づくりについても、よい評価を得ている。今後も、施設・設備の安全点検の実施などを通して、教育環境の整備に取り組んでいく。
- ・全体的に、特に児童の肯定的回答の割合が市と比較して低くなっている。特に改善を要する項目は次の通りであり、次年度は、より一層の取組の充実を図っていく。

A3「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている」の児童の肯定的回答－14.9 ポイント

A17「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」の児童の肯定的回答－10.5 ポイント

【学校運営】

○A22「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している」A23「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる」については、肯定的回答が数値指標を大きく上回っている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となってしまった活動も多かったが、「地域が先生」や地域協議会と連携した学校支援ボランティアによる学校支援活動など、状況を見ながら、できる活動を実施し、よりよい児童の育成に取り組んできた。地域の教育力を生かした教育活動は本校の特色でもある。次年度も、状況を見ながらできる活動には積極的に取り組んでいく。

・A19「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」の教職員の肯定的回答は100%であり、少人数の職員で協力しながら、日々業務に取り組んでいる状況である。しかし、時間外勤務時間は多く、教職員が心身ともに健康な状態でより教育活動を行っていくためには、超過勤務時間の削減をはじめ、児童と向き合う時間を確保するための業務の改善等、「働き方改革」が必須となっている。A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」の教職員の肯定的割合は80%となっているが、次年度は、教職員の意識改革、日課の変更も含めた勤務時間管理に取り組んでいく。

・A17「学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」は児童の肯定的回答が79.5%と低い。児童が「学校が楽しい、学校が好きだ」と思えるような学校にしていかなければならない。次年度は、これまでと同じように「ほめて伸ばす教育」は継続するものの、具体策は見直して、児童自身が、主体的に問題解決やよりよい学級・学校づくりに関わっていけるよう学習や活動を工夫し、児童の思いや願いが実現できる楽しい学校づくりを目指す。

【児童・生徒指導】

- ・目標値を達成できなかった項目は、A2「思いやり」、A3「きまり・マナー」、A14「いじめ防止」、B1「異年齢交流」にかかわる項目であり、特にA3については、児童の肯定的回答の割合が低い。
- ・きまり・マナーについては、身だしなみや学校内での過ごし方について指導を受けた際の児童の返事や態度から、当事者意識や、改善しようとする気持ちが低い結果、基本的な生活習慣の定着につながっていないことが課題である。
- ・いじめ防止については、数値目標の達成とはいかなかったが、前年度と比較して6.1%上昇している。「親子で考える道徳」の実践を通して、児童と保護者が道徳的価値について一緒に考える機会を設けたことにより、学校と家庭がいじめ防止に対する意識を共有できたことが大きいと考えられる。次年度も引き続き家庭と連携した取り組みを実践していきたい。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・今年度は、コロナ禍による教育活動制限があり、例年のように計画された活動が十分に実施することができず、体力向上を図ることが難しかった。
- ・次年度は、引き続き養護教諭と連携し、健康への関心を高めるとともに、新たに学校栄養士との連携した授業を展開し、食への関心を高めたい。

【学習指導】

- ・A1「進んで学習に取り組んでいる」について、児童の肯定的回答は86.7%であり、数値指標を上回った。学校課題における授業研究会を中心に授業改善に取り組んできたことで、友達の考えをよく聞いたり、自分の考えを進んで話したりしようとする児童の姿が見られるようになってきた。学習態度として学習用具がそろわない、授業中の私語等、学習に向かう姿勢において課題があるので、学校全体で共通した取り組みを実施する。
- ・A12「持続可能な社会」について、興味をもっているかの項目については、児童の肯定的回答は69.3%であり、数値指標を大きく下回った。「持続可能な社会」とはどういうものか、引き続き知識として指導を継続し、環境問題や食に関する問題を学習で取り上げ意識づけを図っていく必要がある。

7 学校関係者評価

【コロナ禍における教育活動について】

- ・新型コロナによる様々な自粛の影響だと思うが、児童の評価が前年度より下がっている項目が多かったのが気になる。活動が制限される中で、家庭・学校・地域で何ができるのかを、学校だけでなく、PTAや地域協議会でも話し合うべきだと思う。
- ・全体として、コロナ禍の影響を受けた結果となっていると強く感じる。新型コロナウイルス感染症との付き合いは2年目となるので、動ける時期と集まれる時期を的確に把握し、授業参観・学級懇談会等を実施し、保護者を交えて児童との交流や意見交換をしてゆくべきと考える。
- ・コロナ禍は子供たちの生活に大きな影響を与えていることが感じ取れる。令和3年度は、反省を生かしていかなければと思った。特に気になったのは、A3「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」とB1「児童は、異年齢の友達と遊んだり、年少者をいたわりながら活動したりしている。」の結果。3密を避けながら人との交流を図ることは大切であると思う。また、A12「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」については、家庭での積極的な取組も大切であると思う。こんな時こそ、心の交流のために道徳やボランティア活動は大切と感じる。
- ・コロナの影響により、これまでとは異なる学校運営が求められている状況であったが、特段大きなダメージがあったよう

には見受けられない。今後、より一層 ICT を活用した授業や学校運営は、コロナだけでなく世界的な流れでもあるため、児童のリテラシー向上に加え、職員のリテラシー向上を求めたい。熱心な先生と地域の方、保護者が連携できているよい学校だと思う。

【明るく活気のある学校に】

- ・「学校は活気があり明るいきいきとした雰囲気である」の項目の児童肯定的回答が低いとある。子供たちは、家でも叱られる言葉を多くあびせられている。子供が失敗したときは、叱られた気分のまま終わらせてしまわないで、その子のよい部分を伝え、肯定的な気分を記憶させてほしい。
- ・低学年ほど人としての在り方を再度見直してほしい。人間性を育成する時期であり、学力より道徳心や社会性を身に付けてほしい。

【規範意識の醸成を】

- ・スマホ等でのゲームについての教育は、年に1度ではなく、定期的にアナウンスし続けてほしい。
- ・A3「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」のポイントが低いことが気になった。学童においても、手を洗う・マスクをする・上履きを履く・宿題やおやつの時間は静かに過ごす等、誰かが声を掛けたり見たりしていないと、基本的なきまりが守れない現状。その都度「なぜ、そうしなくてはいけないのか」を伝えて定着を図っている。どの場面でもきまりが守れる児童になってもらいたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○「ベストフェスタ in 西」,「クリーンアップ in 西」,「地域が先生」や地域協議会と連携した学校支援ボランティアによる学校支援活動など、地域の教育力を生かした教育活動は本校の特色でもある。今年度は中止となったものも多かったが、新型コロナウイルスの状況を見ながら、できる活動は積極的に実施し、地域や保護者との連携のもと、よりよい児童の育成に取り組みたい。

・児童が「学校が楽しい、学校が好きだ」と思えるような学校にしていかなければならない。これまでと同じように児童の自己肯定感を育むよう、ほめて育てていくことに加え、次年度は、児童自身が、主体的に問題解決やよりよい学級・学校づくりに関わっていけるよう学習や活動を工夫し、児童の思いや願いが実現できる楽しい学校づくりを目指す。

・学習に向かう姿勢の指導に力を入れていく。また、「GIGA スクール構想」により、一人一台タブレット型パソコンが配備される。授業等での ICT の積極的な活用を通して、「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業のあり方を研究していく。

○「きまりやマナー」については、知識として教えるべきことをきちんと教えた上で、守ることができるよう指導する。地域や家庭においても、同じ方向を向いて大人が関わっていけるよう情報発信をしていきたい。